

2024年度（第13期）

事業計画書

自 2024年4月1日

至 2025年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

2024年度事業計画

2024年3月4日

公益財団法人 読売日本交響楽団

(1) 基本理念と運営方針

読売日本交響楽団は、クラシック音楽の振興・普及に尽力し、心豊かな人と幸福な社会の形成に貢献することを基本理念とする。その上に立ち、多様な客演陣とプログラムを、高い水準の演奏を通じて世に提供し、多くの人々に愛されるオーケストラであり続けたい。24年10月には約10年ぶりとなる欧州公演ツアーを予定する。日ごろの研鑽を通じて蓄積した読響の力について本場の聴衆に披露する。読響の国際的な知名度と演奏水準のさらなる向上を図る。

一方、来日客演者の旅費や宿泊費、公演会場への楽器運搬費などは、戦争の影響も受けた原油などの諸物価上昇、対ユーロでの円安進行、訪日客の回復などを受けて膨らんでいる。楽団の財務基盤を圧迫する経済要因が複数作用しており、24年度の予算は非常に大きな赤字を見込んでいる。運営にあたっては増収策と経費節減を徹底し、運営スタイルのあり方を一時修正することも視野に入れつつ、財務基盤を固め、堅固なものとしていく改革を進める。

(2) 2024年度の演奏活動

指揮者の布陣と演目 常任指揮者6年目のヴァイグレとの協業は、円熟の境地に差し掛かる。得意の独逸系のレパートリーから、4月の「東京・春・音楽祭」（上野、依頼公演）でリヒャルト・シュトラウスの歌劇「エレクトラ」を上演（演奏会形式）。6月「定期」では、オーストリア生まれのシェーンベルクの管弦楽曲「ペレアスとメリザンド」を取り上げる。年度を締めくくる25年3月「定期」では、シェーンベルクの弟子であるアルバン・ベルクの歌劇「ヴォツェック」を演奏会形式で披露。これらを目玉公演とする。

首席客演指揮者・山田和樹は23年度末で退任。その後任に24年度からスロバキアの俊英でヒューストン交響楽団音楽監督を務めるユライ・ヴァルチュハを迎える。ヴァルチュハは22年8月にマーラーの交響曲第9番を指揮、その音楽性と読響との相性の良さが際立った。5月の「定期」「横浜」でマーラーの大曲・交響曲第3番を振る。

東京芸術劇場が1年余かけ改修・閉鎖 「土日マチネー」の会場である芸劇（池袋）が24年9月から約1年間、大規模修繕のため使えなくなる。この間、「土日」は初台の「東京オペラシティ」に会場を移す。公演回数は例年と同じ（シー

ズンあたり各10回)だが、オペラシティの座席数は芸劇より少ない一方、会場の基本使用料は芸劇よりも高いため、収支悪化要因となりうる。

10年ぶりヨーロッパ公演ツアーへ 楽団創立以来12回目となる海外演奏旅行を10月中・下旬、常任指揮者ヴァイグレの下で行う。ベルリン、ハンブルク、ロンドンなどドイツ、英国の計8都市で公演を開催。ソリストには、欧州で目覚ましい活躍を続ける若手ピアニスト藤田真央らを迎える。欧州の音楽市場における読響のプレゼンスを高め、さらに価値の高い演奏活動へつなげていく。

社会貢献活動の充実 オーケストラに触れる機会の少ない地方都市に音楽を届けることの価値はいつの時代も変わらず、国も評価している。読響も、アンサンブルの機動的な展開を通じてサロン（読売新聞東京本社販売局と協力。一般公開）、ハートフル（医療施設向け）、フレンドシップ（小中学校向け）の各コンサート活動を充実させていく。

依頼公演 作曲家・故團伊玖磨の「生誕100周年記念公演」が5月4日、紀尾井ホールで行われ、読響は團の作品を多数演奏する。また、指揮者の井上道義が24年限りで演奏活動から引退するにあたり、自身の「最終公演」の演奏者として読響を指名した。12月30日、サントリーホール。

(3)持続可能な運営への改革

支援母体であるグループ3社、楽員・職員、財団としての読響の3者すべてにとって、オーケストラ活動を持続可能なものにする要請は、日々強まっている。背景には、諸物価上昇、対ユーロでの円安進行などの要因がある。読響は、運営や事業の構造を再点検し、増収と経費節減を両輪で進めて体質の強化を図る。運営費の大部分を占める楽員の賃金については、水準をできるだけ維持しながら全体を時代に合った体系に再編する。これについて読響労組と財団は1月下旬、合意に達した。4月に新制度の運用を開始する。

同時に、楽団の財務基盤の強化を図るため一定の資産を安全に運用する。依頼公演の収支管理、新たな枠組みでの企業協賛の開拓、為替リスク軽減策の導入——に着手する。円安の影響は、客演報酬や渡航費、欧州ツアーの費用に大きな影響を及ぼすため、25年度以降の増収策を早急に検討する。

(4)日本テレビ・読売テレビとの連携

読響の演奏は日本テレビの地上波とBS日テレの「読響プレミア」、読売テレビで一部放送している。24年度は公開収録を2回（※暫定）、同時録音画を8

回(うち1回は欧州ツアー)予定している。過去の放送データを「読響プレミア」のホームページで公開するとともに、インターネット有料動画配信サービス「hulu」でも、直近の放送回に加えて過去のアーカイブ映像を公開している。読響は、引き続きコンテンツの拡充に協力していく。

2024年度 事業計画一覧

I. 自主公演（国内）	59回
1. 定期演奏会	10回
2. 名曲シリーズ	10回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. 横浜マチネーシリーズ	8回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブル・シリーズ	4回
8. 特別演奏会	4回
(特別演奏会内訳)	
首都圏特別	2回
第九公演	2回
II. 依頼公演	32回
1. 首都圏公演	23回
2. 地方公演	7回
3. テレビ出演	2回
III. 海外公演	8回
I + II + III 合計	99回